

「教職教育センタージャーナル創刊号」発行に寄せて

学 長 岡 田 豊 基

本学では、全学教育推進機構の下、共通教育センター、教職教育センターおよび教育開設センターが設置され、本学の教育の充実を促進しています。このうち、教職教育センターは、教職課程および博物館学芸員課程の教育の質の向上を目的として、2013年4月に設置されました。同年10月には、教職課程の教育の質の向上の手始めとして、元現職の教員が教職課程を履修する学生をサポートする教職教育サポート室(有瀬キャンパス6号館5階)が設置されました。

教職教育センターおよび教職教育サポート室が設置されたことにより、本学における教職課程の様子が大きく変わり始めています。まず、教職課程履修者数が増えています。これまでは、学年が進行するにつれ履修者数が大幅に減少する傾向にありましたが、教職教育センターが設置されて以来、減少するもののその人数は少なくなっています。その結果、他大学を含め、大学院に進学してレベルの高い教職を目指す学生の数が増え、また、教員採用試験に合格する現役学生、卒業生の数も増えています。つぎに、教職教育サポート室の利用者が増えています。同室には、教員採用試験や教員養成に関する書籍が数多く配架されており、月曜日から金曜日に日替わりで、小・中学校や高等学校で実際に教鞭をとっていた経験のある実務家教員がサポートを担当し、学生を指導しています。また、同室には模擬教室(633教室)が併設されています。模擬教室では、学生が自主的にグループで勉強をしており、水曜が定例のミーティング、火曜・金曜の5限に勉強会を行っています。ある日の勉強会の内容をみると、教員採用試験で行われる集団でディスカッションすることへの対策として、討論・ディベート・対話の3種をまず区別した上で、「討論は一定の結論を出すことであり、ディベートは説得することである。では対話は？結論も説得も不要な、交流である」という共通認識を持ちながら、体罰をテーマに3種をそれぞれやってみる(しかも司会を交代しながら)という面白い試みをしています。

教員採用試験に合格することは難しく、少子化の傾向がそれに拍車をかけているようです。しかし、小中一貫教育が導入される可能性がある中で、小中一貫の新しい教員免許状の検討もなされていることから、教職を目指す学生の声に応えるためにも、本学における教職教育センターの役割はこれまで以上に重要になっていると思っています。

以上のような状況の下、この度、「教職教育センタージャーナル」を発行することになりました。本ジャーナルには、教職教育に関する有益な論文や貴重な資料・データが掲載され、その結果、神戸学院大学の教職教育の発展に大いに寄与することを期待するとともに、教職教育センター関係各位におかれまして、引き続き、積極的な取り組みをしていただくことを楽しみにしております。